

発行 小布施まちづくり委員会
会長 元田和行
事務局 小布施町役場企画政策課 定住交流係
編集 小布施まちづくり委員会広報委員会

2008(平成20)年12月18日創刊
©小布施まちづくり委員会

小布施 まちづくりリポーター



E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

第5回「小布施まちづくり語り座」報告

講師 唐沢彦三さん
特定医療法人新生病院理事長、
理事長 前小布施町長

テーマ 心をつなぐまちづくり

いささか緊張気味な面持ちで登壇された今回の講師、唐沢彦三さんは昭和31年入庁にして今年83歳になられる。前町長として16年間小布施町をけん引された後も多方面にて活躍される多忙な方である。本日のテーマは「心をつなぐまちづくり」と題しての講演である。開口一番、「市町村合併は大きな出来事であった」との一言から講演が始まった。ここでの着眼が当時現職の町長であった唐沢さんの抜きんでたところで、未来を背負う中学生の



11月22日(木) 公民館講堂

特定非営利活動法人パウル会

ある事実を如実に物語っている。

16年間の長きに亘ってご活躍された前町長が日ごろからモットーにしておられたのが「外はみんなのもの、うちは自分たちのもの」といういわば小布施のまちづくりの合言葉である。この発想にヒントを得、折から一億円を全市町村に当時の竹下首相の英断で得た資金を小布施町の花づくりに充当した。そのきっかけとなったのが田圃のクロに花を植えたことにあり、東京の花市場から廉価で余った花を小布施町に持ってきたことである。「装いのまちづくり」、「福祉のまちづくり」、「産業のまちづくり」を念頭においた結果、花づくりが街を変え、住民の心の持ちようが大きく変わった。花のまちづくりが完成した瞬間である。今日



意見を問うたことにある。出席者のほぼ全員が「合併反対」であり、結果として小布施町は自立を選択した。後日、隣の高山村も自立を選択した。講師が本人が町長職退任3日目にして、たつての依頼を受けて応じた金沢市での講演後、小冊子にまとめたものが「小さい町はいいことだ」というものであった。まちづくりは、まず人の顔が見えなくてはいけない、ということを講師が本人が常に念頭におかれていることで

「open garden」として全国からの観光客を集める貴重な小布施町の財産となっている。次いで取り組まれたのが「農業は強く優しく面白く」をモットーにしての振興公社設立である。95%もの補助金を国から得て平成2年に設立した。さらに平成15年、「小布施 visitors industry」戦略を策定されてもいる。16年間という長期間に及んだ町長職であったが、この間、長野県は



もとより霞が関へも何度となく足を運ばれた中からたくさんの方の知己を得られたことに加えて、ご本人の持つお人柄から、先輩後輩も多々お持ちになり、彼らから然るべき時、所にあつて側面支援を得た、とのお話も「さもあんなん」との印象を強くした。

「まちづくりとは人づくり」であり、「乳児は肌を離すな、少年は心を離すな」を信念に持ち、小布施のまちづくりに精魂を傾けられた16年の現職町長時代の出発点を語り終えられた時にはすでに午後8時になっていた。この他、平成5年の福祉基金の創設、600本にもなる千曲川堤防の八重桜の並木、小布施町を国際北斎会議の開催地として誘致された実績はかば数えきれないほどである。それらすべてをすべて紹介できないのが心残りであるが、前町長とされた実績は小布施住民すべてが充分承知していることである。

(文責：内山英行)

定住促進を考える部会

幸福な町はどんな町か。

当部会の発足4年目となった平成30年度は、前年度に引き続いて空き家問題を中心とした活動で始まりました。空き家を扱うことで移住希望者の受け皿を確保することにつながるほか、今後の人口減少時代に

出は残念ながら見送りとになってしまいましたので、今は、空き家・空き店舗活用セミナーを開催し、実際に空き家を活用した活動の可能性を探っています。

また年度後半の大きなテーマとして「人口減少社会における、小布施町の幸福な未来像」が挙げられます。日本の人口は将来8、9千万人程度まで減少する

環境を考える部会

環境、農、食について考える機会を増やしましょう。

今年度も、生ごみリサイクル土作り(栗ガ丘小学校4年生向け、菌ちゃんファンクラブ一般向け)、めぐる元氣野菜の普及活動を行いました。生ごみを有効に微生物(菌ちゃん)を使った農法をさらに広げるため

れとは異なる方向に進んでいます。今後も、環境部会としても、皆様が健康に安心して暮らせるよう、農と食

に、六次産業センター内に菌ちゃん農園を設け、どこでも参加できる菌ちゃんファンクラブとして活動しています。秋に収穫祭(野

来年度は、他の部会とも会全体を盛り上げていきたいと思えます。環境、農、食について考えていきましょう!

比較すると、日本は世界の流



6月16日に開催された講演会「健康やかな暮らしのために知っておきたい農と食のこと」には、100人以上の方がご参加くださいました。

部会長 横山雄一

部会長 工藤陽輔

共育を考える部会

自己肯定感を高めるために

本年度の共育部会の活動は完成した脳科学パンフレット(脳パン)の内容を町内の皆さんに広げることが中心に行ってきました。脳パンはまちづくり委員会が作成した、乳幼児期に脳をしっかりと育てる大切さを多くの保護者の皆さんに紹介するパンフレットで、町の子育て教室(6・7か月児対象)やブックスタートで紹介しています。そして11月に行われた第7回おぶせ未来共育会議ではエンゼルランドセンターを会場に、利用している保護者の皆さんを対象として、長野市で子育て支援活動をして

かせないものであること、乳幼児のお子さんには「言葉が少なく、リズムや響き」が楽しい絵本」の紹介と読み聞かせのコツについて説明いただきました。タッチケアや本を読みながらのお子さんとの関係づくりは自尊心が向上し「オキシトシン」「セロトニン」といったホルモンの分泌を促します。乳幼児の子育てを充実させ、自己肯定感を高めることができるように、小さいお子さんを持つ保護者の皆さんに「脳パン」を広める活動はしばらく続きそうです。

部会長 市村良江



いる「きつねのしっぽ」の皆さんによる「タッチケアと絵本の読み聞かせ」を行いました。タッチケア(皮膚への感覚刺激)は科学的根拠に基づき、子どもの成長と発達(脳を含む)に欠

安全を考える部会

住民防災講座と、

おぶせ防災・縮災トレーニング

昨年は災害の多い年でした。過去の想定外の災害以後今ではどの町でも実践的な防災・減災訓練が当たり前となっています。小布施町でもまだまだ訓練課題があります。

安全部会では、昨年12月に信州大学の廣内教授による防災・減災のまちづくりをテーマとした住民防災講座をまちとしてテラソで行いました。(写真)この講



座では従来の防災・減災のお話に最新の考え方や心構え等のほか災害現場の防災データが組み込まれ、話題が豊富でした。
ご希望の方には、当日配布資料を差し上げます。

※

(塩尻)

小布施町では洪水のハザードマップに基づく避難訓練や自主防災会の避難訓練が毎年行われています。

近年、阪神神戸大地震・東北大地震・熊本地震・大坂北部地震・北海道厚真町地震など、予測の困難な地

部会長 塩尻利一

震に見舞われ続けており、こうした対策の一步として安全部会では「防災・減災・縮災(おぶせ防災・縮災)トレーニング(OB-ST)」について検討しました。(吉田)



部会長 花村二三

ついで、僅かでも達成し始めているのかと喜ばしいことでした。自分史入門講座については来年度も継続させて頂く中で、並行して未来日記(エンディングノート)についての検討・導入や、自分史や未来日記の周知や提供方法ならびに設置場所などについて検討し実践していければと考えています。ご興味のある方は、是非福祉部会にご参加ください。



交流を考える部会

町内在住外国籍住民との交流会

交流を考える部会では、今年も2月17日(日)に健康福祉センターで町内在住の外国籍の皆様と地域の皆様が中国本場水餃子づくりや巻きずしを通じて交流を深め楽しもうと、多文化交流会を開催しました。

今回で9回目となりましたが、小学生から大人まで(多国籍)約40名の皆様が参加され、粉から餃子の皮を一つ一つ伸ばし、いろいろな形の餃子や巻きずし、さらに中国の伝統的なお菓子



中村桂子

「麻花」も作りました。アットホームな雰囲気です。互いにコミュニケーションを取りながら交流を深めることができましたと思います。

二回目の「自分史入門講座」を終えて

福祉を考える部会

福祉部会では、1月から2月に渡り3回構成で第二回自分史入門講座を開催しました。今回も前回に引き続き若者会議「教育福祉プロジェクト」の方々が講師を務めて頂く中で開催で、大勢の方にご参加いた

だくことができました。二回目の開催ということもあってか、参加者の中には今まで歩んできた人生を書き綴りお持ちいただいた方も何人かいらっしゃいました。これは現時点での目的としている自分史の周知に

あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか!

様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月に1回くらいのペースで集まって活動しています。そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局

Tel:026-214-9102

Fax:026-247-3113

E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

TOPICS

町議会との懇談会報告

2月15日(金)に公民館において町議会との懇談会を行いました。お互いの活動や課題を情報交換し、まちづくりや課題解決につなげていくことをねらいに毎年行っています。今回の懇談会では議会から「議員のなり手不足」についての議題提案があり、「議員のなり手不足検討会議」の設置経過や検討会議の状況、検

討会では出された意見について説明がありました。検討会では出された意見は「議員を支える仕組み」「家族の中での理解」「選挙制度の課題」などに整理されており、様々な面から課題や支援策を検討していることがわかりました。議員を支える仕組みとして「政策サポーター制度」の設置が必要」などの意見があり、こ

れらが実現できれば議員のなり手不足も解消されていくのではと思います。4月に予定されている町議会選挙ですが、これまでの選挙では立候補者が議員定数を超えない状況が続いており、喫緊の課題となっています。町議会選挙は投票する町民の皆さんが、まちづくりに関心を寄せる大切な機会となつてほしいと思います。

広報委員会だより

◇今回の小布施まちづくりボイスは「平成」最後の号となります。次回の23号からは、新元号での最初の発行になります。

◇編集委員会は平成30年に改正された会則等で各部長の参加を承認した新しい委員会です。また、SNSを通して広く委員会情報を発信しています。フェイスブックはその一つです。

◇広報委員会では、ボイスの編集に必要な事業の記録班も活動しています。

町のビデオリポーターがこの記録をビデオと写真について随所で記録し、原稿に楽しさを掲載するハイビジョンや4K動画・画像を編集します。

◇編集委員会は広報委員長・編集長・委員10名と事務局で構成し、全員でレイアウト編集後、入力担当委員の最終作業で印刷所へ入稿、印刷後は町の全戸へ配布しています。

梅の花初見。早いよ！
(定住・横山)

◇編集委員会は1年間皆様ご苦勞様でした。12年目もよろしく!!
(吉田)

◇編集委員会は1年間皆様ご苦勞様でした。12年目もよろしく!!
(吉田)

◇編集委員会は1年間皆様ご苦勞様でした。12年目もよろしく!!
(吉田)

編集長の声

昨年の小布施町議員とまちづくり委員の懇談会で、「議会の一般質問」を傍聴する際に発言者の顔が見えないので、モニターがあるといいのではないかと提案したところ、早速対策をとっていただきました。

この設置を見届けに出かけましたら、この日栗が丘小学校の児童が授業の一環で会場を訪れ、モニターで発言者を確認する姿がありました。



編

集

後

記

これからは各部会や町内の各団体との交流も必要ですね。いろんな声を聴きたいです。(福祉・花村)

避難のカード作成して皆さんに分かりやすい、物ができたらと思えます。(安全・塩尻)

現執行部も2年目を目前にして新たな挑戦を始めるところでしょう。楽しみなことです。(内山)

安市の祭事に参加雪の少ない冬に天災の無い年になるよう祈りました。(安財)

毎日は大変だけど、なければいけないでちょっと寂しいー雪掻き。(奥田)



まちづくり委員会からは部長や副部長が現在、部会で取り組んでいる事業説明を行い、議会の皆さんに理解や協力をお願いしました。短時間ですが、双方にとって交流と対話を深めた有意義な時間となりました。(元田和行)